

地方会・研究会記録

第 59 回頸肩腕障害研究会*

1. 頸肩腕障害の定義・診断基準・病像等の提案

小野雄一郎 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学)

この間検討してきた頸肩腕障害の定義・診断基準・病像等の最終報告が産業衛生学雑誌 49 巻 2 号 A13-A32 頁 (2007 年 3 月) に掲載された。前文となる「頸肩腕障害の定義・診断基準・病像等に関する提案について」では、頸肩腕障害に関わる問題の変遷と考え方の発展、研究会における取組みの経緯を記載した。「頸肩腕障害の定義 2007」では、定義 (頸肩腕障害は、作業態様に関わる負荷が上肢系の筋骨格系組織に作用することにより生ずる機能的または器質的障害である。) とともに、定義の基本的概念や用語の説明、定義の解説を行った。「頸肩腕障害の診断基準 2007」では、前文・適用方法の後に、頸肩腕障害 (非特異的障害と特異的障害) の診断基準について述べた。「頸肩腕障害 (非特異的障害) の病像 2007」では、病像・病態に関する文書作成の考え方、頸肩腕障害 (非特異的障害) 病期別症状・所見、病態研究の到達点の概要を記述した。

第 60 回頸肩腕障害研究会**

1. Premus 2007 の報告

小野雄一郎 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学)

2007 年 8 月の米国 (ボストン) における作業関連性運動器障害予防の国際科学会議 (Premus 2007) の全体報告 (Keynotes) では米国や国際社会の社会的不平等に関連する筋骨格系障害のリスクと対応、同障害による社会経済的損失、RCT などの職場介入研究の意義と問題点、Work Organization を基盤とする階層構造的なモデルと統計学的手法、Dose と Exposure を区別した障害モデル等が話題となった。障害の実態・疫学、要因・曝露評価、予防・介入・治療、発症機構・病態等の多彩

な口頭演題とポスターは合計 400 題近くとなった。本研究会提唱の定義等を小野らが発表し、特異的・非特異的障害の発生順位の質問や、欧州でも整形外科医や臨床医の理解が良いとは言えないとの意見等が聴かれた。韓国で 2013 年の Premus が開催予定となり、背景に近年の筋骨格系障害補償件数の急増があった。

2. 各国の筋骨格系障害研究の取組と各国の国際的総合競争力との関連性

中田 実 (金沢医科大学衛生学)

第 6 回 PREMUS は、参加国数、報告演題数共に過去最大の規模となった。背景には、世界の先進工業国各国では労働起因性障害の中で筋骨格系障害が 60% 以上を占める中で、今後、最大の職業性疾患として正面から取り組みまねばならないという共通認識の存在がある。1992 年の第 1 回 PREMUS は先進工業国を中心に参加国数 21 で始まったが、参加国数はその後の世界経済のグローバル化を反映して、急速に経済発展する BRICs 諸国をはじめ、2004 年には 31 か国、今回は 38 か国と急増した。主催国はスウェーデン、カナダ、フィンランド、オランダ、スイス、米国など、筋骨格系障害の研究が活発な諸国が担当し、これらの諸国は毎回報告数も多い。日本も主催が期待されたが、国を挙げて問題解決への多大な意欲を持つ韓国が 6 年後の主催国として名乗り承認された。各国の筋骨格系障害研究への取組の熱意とその国の国際的総合競争力との関連性が注目される。

3. 頸肩腕障害の研究に関する今後の課題および取り組み方の提案

三橋 徹 (ひらの亀戸ひまわり診療所)

8 月にボストンで開かれた作業関連筋骨格系障害 (WMSD) 予防のための国際学会 PREMUS 2007 では、発表 372 題中日本からの発表はポスター 3 題のみで、国際的に日本の研究が少ないと感じられた。日本でも腰痛や肩こりは頻度の多い一般的な障害と考えられているが、そのうちどれくらいが作業関連疾患であるのかは知られていない。日本で WMSD 予防のキャンペーンを起こすには、罹患者数と社会的損失額を概算であっても明らかにする必要がある。その調査を組織的に行ない、予防につなげることを課題として検討したい。作業の具体案としては、頸肩腕障害、腰痛、下肢痛を含め筋骨格系障害の作業関連性の診断基準をエビデンスに基づいて作成する。また、予防のためのツールとしてイラスト入りマニュアルを作成し、どうして対策が必要かの記載に危害要因のエビデンスの情報を入れ、どのように予防するかの記載に改善事例をあげるのも良いと考えた。

* 日 時：2007 年 4 月 25 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

場 所：大阪国際会議場

世話人：小野雄一郎 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学)、埴田和史、車谷典男、宇土 博、中田 実、中石 仁、福地保馬

** 共 催：近畿地方会職業関連性筋骨格系疾患研究会

日時：2008 年 2 月 2 日 (土) 13 : 00 ~ 17 : 00

場 所：京都私学会館

世話人：小野雄一郎 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学)、埴田和史、車谷典男、宇土 博、中田 実、中石 仁、福地保馬

4. 今後の頸肩腕障害研究会の展望について

宇土 博 (広島文教女子大学福祉工学)

2007年度の頸肩腕障害の定義・診断基準・病像等に関する提案は、頸肩腕障害をより包括的かつ病理プロセスを詳細に捉えたものであり、今後の予防対策の基礎理論を提案したこと、健康診断への応用や業務上の意見書の作成などに有用である点が評価される。この報告では、この提案に基づいて、今後のわが国における本障害の予防対策をさらに推進するための課題と研究の枠組みの提案を行う。今後に残された課題としては、1) わが国で

も頸肩腕障害は依然として発生し続けており、これに対する人間工学を応用した職場改善・支援機器の開発・研究が必要である(一次予防)。2) 頸肩腕障害の発症事例や難治例への治療研究は極めて不十分であり、慢性疼痛治療に有効な「鍼治療=経絡治療」等の治療の立証・開発・研究が必要である(二次～三次予防)。これらを通して、3) 一次予防の産業保健対策から一次～三次の包括的な予防対策を行う産業医学対策としての頸肩腕障害対策への展開を図る必要がある。

(独)国立環境研究所公開 シンポジウム 2008

テーマ：温暖化に立ち向かう —低炭素・循環型社会をめざして—

開催日時・会場：

1. 東京会場 平成20年6月21日(土) 12:00～17:30
メルパルクホール(港区) 定員 約1,200名
2. 札幌会場 平成20年6月28日(土) 12:00～17:30
道新ホール(札幌市) 定員 約700名

参加費：無料

参加登録：ホームページ (<http://www.nies.go.jp/sympo/2008/>) にてお申し込みいただくか、氏名、年齢、性別、連絡先住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス、参加希望会場(東京または札幌)、職業を明記の上、下記宛てにE-mail、FAXまたはハガキにてお申し込みください。後日、E-mail、FAXまたは郵送にて参加証をお送りします。

問い合わせ先：

国立環境研究所公開シンポジウム2008 登録事務局
〒171-0042 東京都豊島区高松1-11-16 (株)ステージ内
TEL: 03-5966-5784 FAX: 03-5966-5773
E-mail: info@nies2008.stage.ac

産業医科大学『メンタルヘルスエキスパート産業医』養成コース 参加者募集のお知らせ

労働者の職場復帰支援等の事業場におけるメンタルヘルス対策を立案し、実施する能力を修得するとともに、産業医の資質向上において各地域や企業での中核的な役割を果たすことができる産業医の養成を目的とした研修プログラムです。平成19年に第1回を開催し、参加者の皆さんにたいへんご好評いただきました。本年はさらにプログラムを改善して、開催いたします。

開催場所・日時 東京会場(東京ファッションタウン)：

平成20年 8月30日(土) 13:00-17:00, 8月31日(日) 9:00-17:00
9月 6日(土) 13:00-17:00, 9月 7日(日) 9:00-17:00

北九州会場(北九州国際会議場)：

平成20年12月 6日(土) 13:00-17:00, 12月 7日(日) 9:00-17:00
12月13日(土) 13:00-17:00, 12月14日(日) 9:00-17:00

各会場とも、4日間の全コースに参加できることが応募条件です。

募集人数：各会場とも50名程度(応募多数の場合には抽選で決定)

参加費用：無料

応募期間：平成20年5月12日(月)から6月13日(金)

申込み方法等：産業医科大学ホームページ (<http://www.uoeh-u.ac.jp/JP/index.html>) の産業医学・産業保健のページをご覧ください。

問合せ先：〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

産業医科大学産業医実務研修センター

TEL: 093-603-1611(3683), FAX: 093-603-2155, E-mail: mentalex@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

第 15 回日本免疫毒性学会学術大会 (JSIT2008) 第 52 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会

会 期：平成 20 年 9 月 11 日 (木)・12 日 (金)
 場 所：タワーホール船堀 (東京都江戸川区船堀)
 主 催：日本免疫毒性学会
 共 催：日本産業衛生学会 アレルギー・免疫毒性研究会, 日本薬学会, 日本衛生学会
 協 賛：日本トキシコロジー学会, 日本毒性病理学会
 テーマ：「免疫毒性研究の新展開」
 学術大会ホームページ：http://jsit2008.umin.ne.jp/
 年会長：国立医薬品食品衛生研究所 澤田純一

9 月 11 日 (木)：

- 年会長講演「遺伝子多型と抗がん剤の骨髄毒性」(澤田純一 国立医薬品食品衛生研究所)
- シンポジウム「ナノ粒子の生体影響」
- 招聘講演「Immunotoxicology of innate immunity」(Prof. S. B. Pruetz ミシシッピ州立大学)
- 一般演題

9 月 12 日 (金)：

- シンポジウム「腸管免疫系とその調節」
- ポスター討論
- 教育講演「環境化学物質のイムノトキシコゲノミクス」(野原恵子 国立環境研究所)
- ワークショップ「医薬品の副次的免疫調節作用とアレルギー性を考える」
- 一般演題

一般演題募集期間：平成 20 年 5 月 20 日 (火)～6 月 30 日 (月)
 発表形式：口頭発表及びポスター発表
 事前登録締切日：8 月 22 日 (金)
 問い合わせ先：第 15 回日本免疫毒性学会学術大会事務局
 〒 158-8501 東京都世田谷区上用賀 1-18-1 国立医薬品食品衛生研究所内
 Tel 03-3700-1349 (手島), 03-3700-9428 (澤田)
 Fax 03-3700-7438
 E-mail jsit2008@nihs.go.jp

第 16 回日本産業ストレス学会

会 期：平成 20 年 12 月 5 日 (金)～6 日 (土), 研修会 7 日 (日)
 会 場：東京大学医学部 (本郷キャンパス) 教育研究棟 14 階 鉄門記念講堂
 大会長：川上憲人 (東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野・教授)
 テーマ：産業ストレス対策の国際標準
 基調講演と対談：「韓国の産業ストレス対策, 日本の産業ストレス対策」
 Sei Jin Chang (韓国産業ストレス学会・前理事長)
 川上憲人 (東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授)
 特別講演：「若者はなぜやる気がなくなったのか」(仮題)
 下山晴彦 (東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース教授)
 シンポジウム：「産業ストレスの第一次予防の国際標準」
 「産業ストレスの第二, 三次予防の国際標準」
 演題締め切り：2008 年 9 月 19 日 (金) ※詳細は HP に掲載予定です。
 ・日医認定産業医研修基礎研修 (後期) または生涯研修 (専門) 計 5 単位取得 (申請予定)
 ・産業看護職継続教育単位取得 (申請予定)

事務局：
 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野 島津明人
 〒 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
 TEL：03-5841-3364 FAX：03-5841-3392
 E-mail：jsr16@m.u-tokyo.ac.jp HP：http://www.jstress.net